

Ⅱ．平成18年度決算状況

～19年4月にオープンした「坂の上の雲ミュージアム」～
(建築家・安藤忠雄氏の設計)

司馬遼太郎氏の小説「坂の上の雲」を原作とした
NHKスペシャルドラマが平成21年から放送予定

坂の上の雲ミュージアム
SAKA NO UE NO KUMO MUSEUM

平成18年度決算の特色

コア業務純益は5年連続で増益 過去最高に

収益力は着実に向上

貸出金残高 3兆1,078億円、年間増加額 657億円、年間増加率 +2.2%
～平成9年3月期以降、10年連続で増加～

預金等残高 4兆1,984億円、年間増加額 830億円、年間増加率 +2.0%
～平成9年3月期以降、10年連続で増加～

預り資産残高 年間797億円増加、年間増加率 +29.7%

信用コスト158億円(前年度比+122億円)により最終減益

不良債権比率が3.29%に上昇 ～18年9月中間期比+0.17ポイント～

連結自己資本比率12.54% 有価証券評価益2,182億円と高い健全性

創立65周年を迎え、平成18年9月中間期に記念配当50銭を実施済み
～年間配当7円50銭～

損益状況



伊予銀行

● コア業務純益は過去最高益を更新 信用コストの増加により減益

- コア業務粗利益 … コア業務粗利益は3年連続増加し、**過去最高の806億円に**
- コア業務純益 … 資金利益・預り資産関連手数料の増加、経費の減少により、**過去最高の367億円に**
- 当期純利益 … 中間期に実施した一層厳格な自己査定に伴う信用コスト増によって減益

平成18年度決算(単体)

(単位: 百万円)

	18/3	19/3	前年度比	増減率
業務粗利益	77,468	80,023	+ 2,555	+ 3.3%
資金利益	71,013	73,121	+ 2,108	+ 3.0%
役務取引等利益	6,563	6,940	+ 377	+ 5.7%
その他業務利益	△ 108	△ 39	+ 69	
(国債等債券関係損益)	(△ 868)	(△ 546)	(+322)	
コア業務粗利益	78,336	80,569	+ 2,233	+ 2.9%
経費(△)	44,662	43,846	△ 816	△ 1.8%
人件費	24,477	23,726	△ 751	△ 3.1%
物件費	18,037	17,905	△ 132	△ 0.7%
税金	2,147	2,214	+ 67	
①一般貸倒引当金繰入額(△)	△ 776	△ 4,454	△ 3,678	
業務純益	33,583	40,631	+ 7,048	+ 21.0%
コア業務純益(注)	33,674	36,722	+ 3,048	+ 9.1%
臨時損益	△ 3,604	△ 15,148	△ 11,544	
②不良債権処理額等(△)	4,379	20,260	+ 15,881	
株式関係損益	355	3,793	+ 3,438	
その他の臨時損益	419	1,318	+ 899	
経常利益	29,979	25,483	△ 4,496	△ 15.0%
特別損益	1,491	1,350	△ 141	△ 9.5%
うち償却債権取立益	1,875	1,401	△ 474	
税引前当期純利益	31,470	26,833	△ 4,637	△ 14.7%
当期純利益	19,361	16,533	△ 2,828	△ 14.6%

前年度(18/3)比の主な増減要因等

業務粗利益 … 前年度比+2,555百万円

- 資金利益 … 貸出金および有価証券運用の増強により増加
- 役務取引等利益 … 投資信託の販売が好調に推移したことにより増加

コア業務粗利益 … 前年度比+2,233百万円

3年連続増益で過去最高

経費 … 前年度比△816百万円

- ◇ 人件費が減少 … 退職給付関連費用の減少等
- ◇ 物件費が減少 … システム投資等にかかる減価償却費が減少

コア業務純益 … 前年度比+3,048百万円

5年連続増益で過去最高

信用コスト(①+②) … 15,805百万円(前年度比+12,203百万円)

①一般貸倒引当金繰入額(前年度比△3,678百万円)

- ◇ 一般貸倒引当金は、4,454百万円の大幅な取崩し
- … 厳格な自己査定に基づいて中間期に一部大口先がランクダウンし要管理債権額が減少

②不良債権処理額(前年度比+15,881百万円)

- ◇ 上記ランクダウン先等に対して個別引当を予防的に実施
- ◇ 自己査定基準を一部変更

年間配当金7円50銭 … 前年度比+50銭

- 中間期に創立65周年記念配当50銭を実施
- 記念配当を含め年間配当7円50銭 … 3年連続増配

(注)コア業務純益…債券関係損益を除く 一般貸倒引当金繰入前「業務純益」

18年度コア業務粗利益増減要因

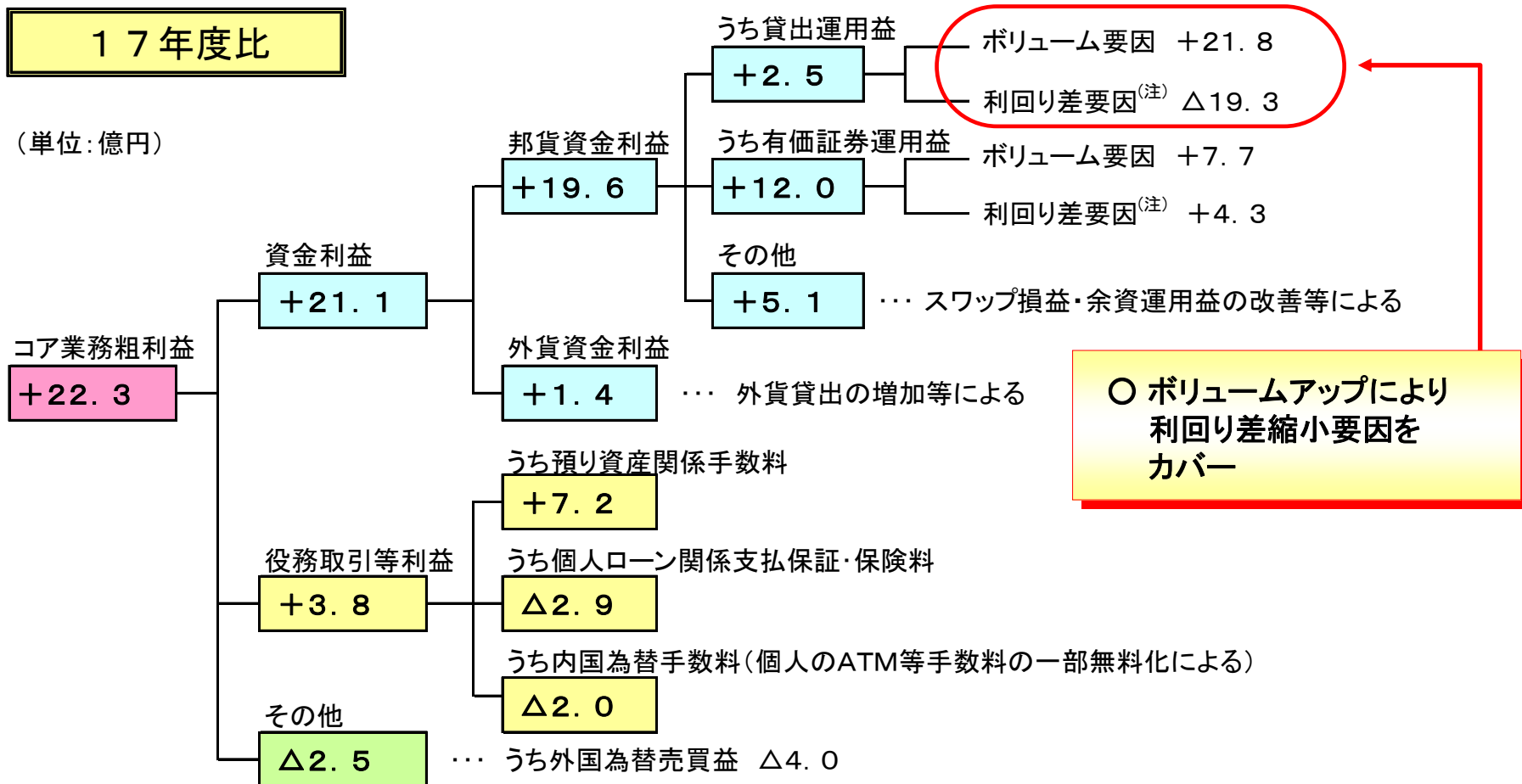


伊予銀行

- 邦貨資金利益 … 貸出運用益は、利回り差縮小要因をボリューム要因でカバーし増益
有価証券も運用増加および株式・投資信託の利回り向上により大幅増益
- 役務取引等利益 … 投資信託を中心とした預り資産販売への取組みにより増益

17年度比

(単位: 億円)



(注) 利回り差は預金等利回りとの差を使用している。

預貸金の状況



預貸金ともに期末残高が「10年連続」増加し、収益基盤は着実に成長

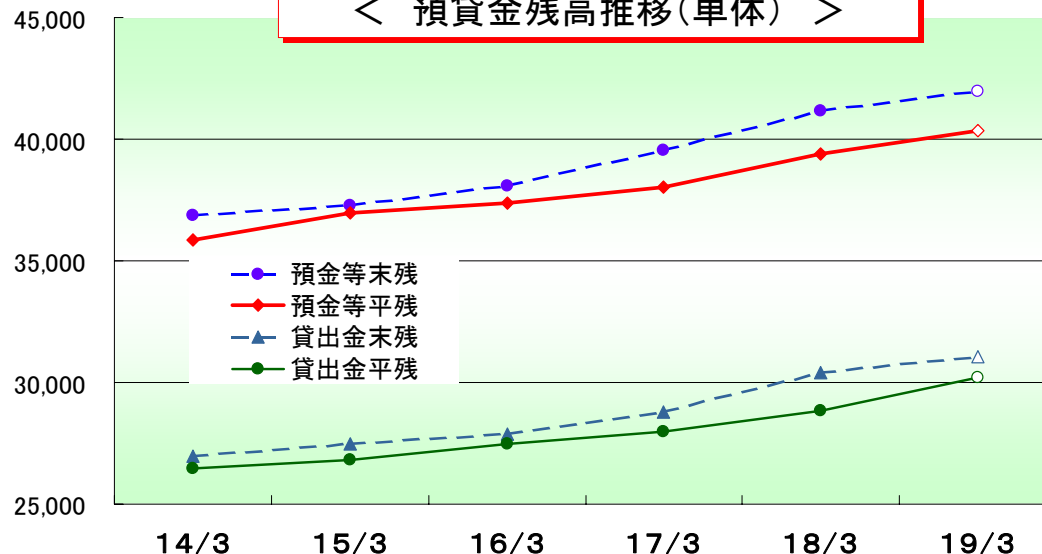
< 預金等残高推移(単体) >

(億円)

	14/3	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	前年度比	増加率
預金等末残	36,885	37,256	38,066	39,545	41,154	41,984	+ 830	+ 2.0%
うち個人預金	25,231	25,744	25,980	26,532	26,668	27,581	+ 913	+ 3.4%
預金等平残	35,840	36,958	37,368	38,017	39,387	40,371	+ 984	+ 2.5%

(単位: 億円)

< 預貸金残高推移(単体) >



◆ 9/3期~19/3期 ◆
預貸金ともに**10年連続**で
期末残高増加中

貸出金平残は
計画(1, 000億円)を
上回る順調な増加

< 貸出金残高推移(単体) >

(億円)

	14/3	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	前年度比	増加率
貸出金末残	26,979	27,488	27,896	28,782	30,421	31,078	+ 657	+ 2.2%
うち個人融資	5,948	6,449	6,937	7,300	7,771	8,130	+ 359	+ 4.6%
貸出金平残	26,478	26,831	27,466	27,976	28,843	30,203	+ 1,360	+ 4.7%

開示不良債権の状況

● **開示不良債権比率** … 自己査定基準の一部見直しと厳格化により、18/9比で0.17ポイント上昇して3.29%となるも、依然低水準

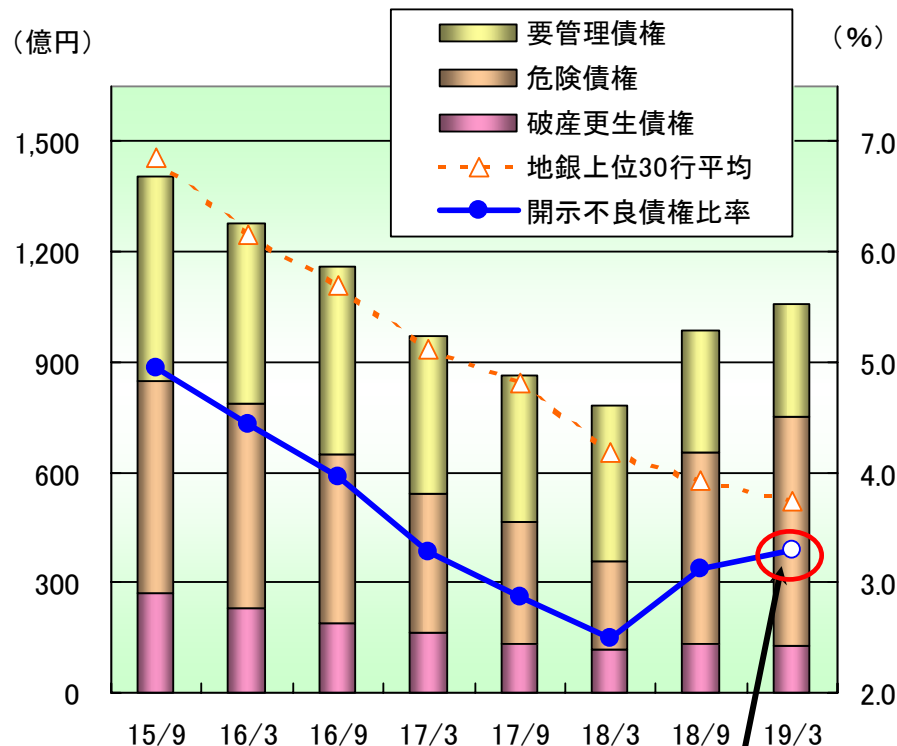
○ 2006年度中計目標の「2%以下」へ向けて「企業再生支援」への取組みを強化

＜金融再生法開示基準による不良債権＞

(億円)

	18/3	18/9	19/3	18/9比	18/3比
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	119	131	128	△ 3	+ 9
危険債権	241	522	621	+ 99	+ 380
要管理債権	422	332	308	△ 24	△ 114
開示不良債権合計(A)	782	987	1,058	+ 71	+ 276
正常債権	30,561	30,575	31,067	+ 492	+ 506
合 計	31,343	31,563	32,126	+ 563	+ 783
開示不良債権比率	2.49%	3.12%	3.29%	+0.17%	+0.80%
保全額(B)	658	806	856	+ 50	+ 198
貸倒引当金	258	325	328	+ 3	+ 70
担保保証等	399	480	527	+ 46	+ 127
保全率(B)/(A)	84.08%	81.65%	80.89%	△ 0.76%	△ 3.19%

＜開示債権額・比率推移＞



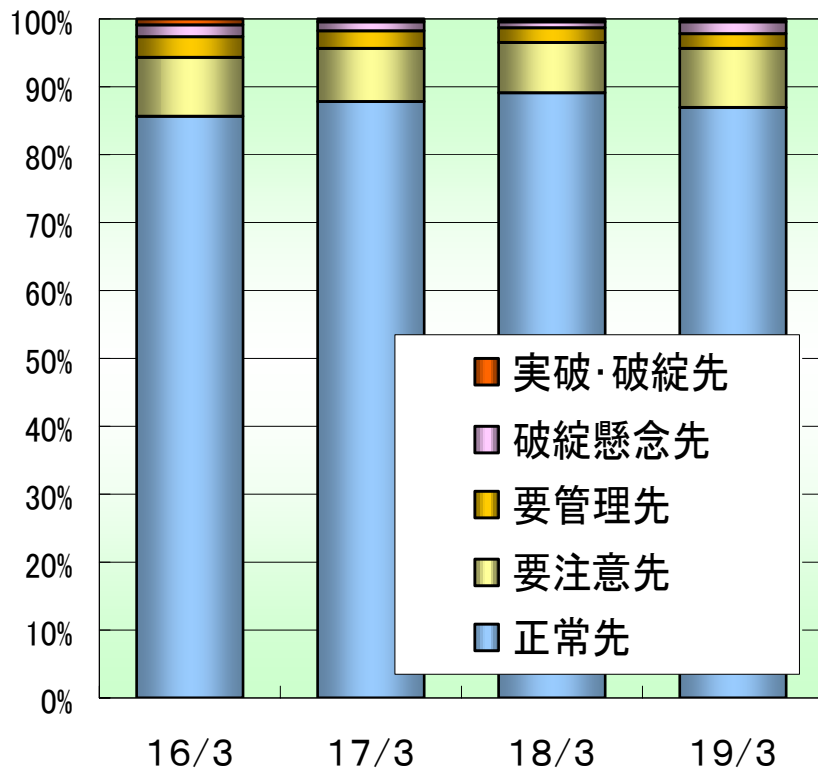
開示不良債権比率 3.29%

自己査定・要因別信用コスト額の状況

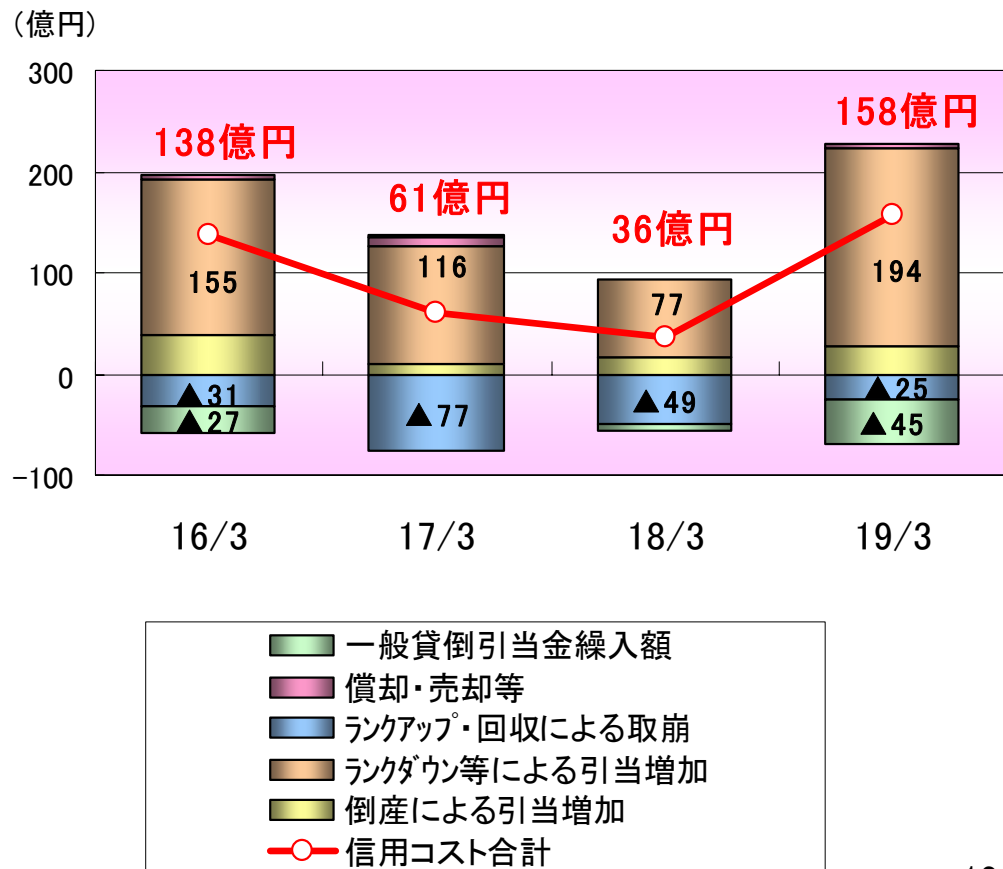
● 地域金融機関としての使命を果たしつつ、不良債権の縮減に努める

- 自己査定基準の一部見直し・厳格化により不良債権・信用コストは増加
- 企業再生支援への取組み強化などにより、不良債権比率2%以下を目指す

< 自己査定区分別構成比推移～債権額ベース～ >



< 要因別信用コスト額推移 >



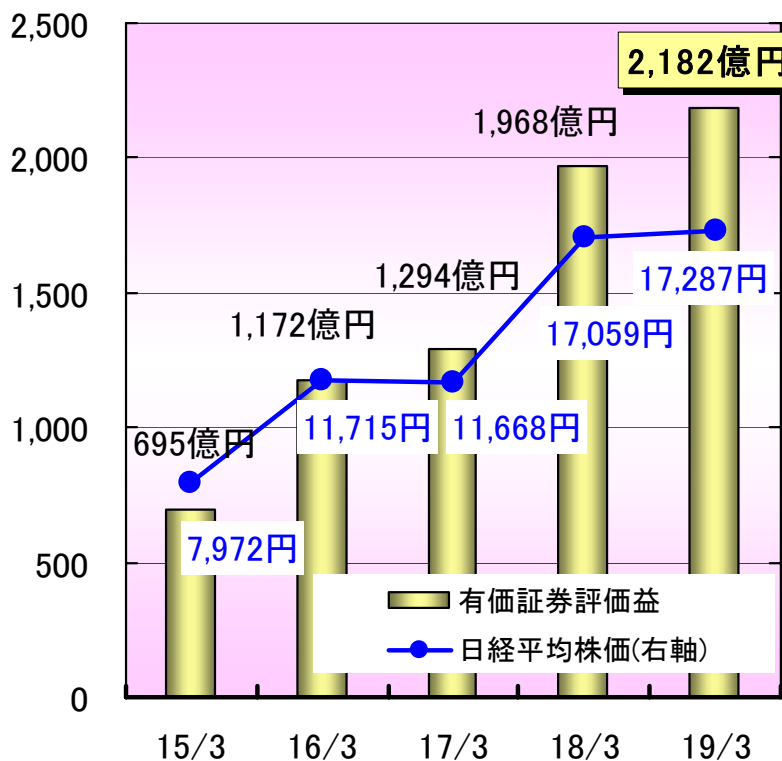
有価証券評価益・自己資本比率の状況

● 健全性指標は高水準を維持

- 有価証券評価益は株価上昇により **2,182億円**
- バーゼルⅡに基づく新基準による連結自己資本比率は **12.54% (過去最高)**
連結Tier1比率は **8.13%** と初めて **8%台を突破**
- R&Iによる外部格付「**AA-**」(安定的)

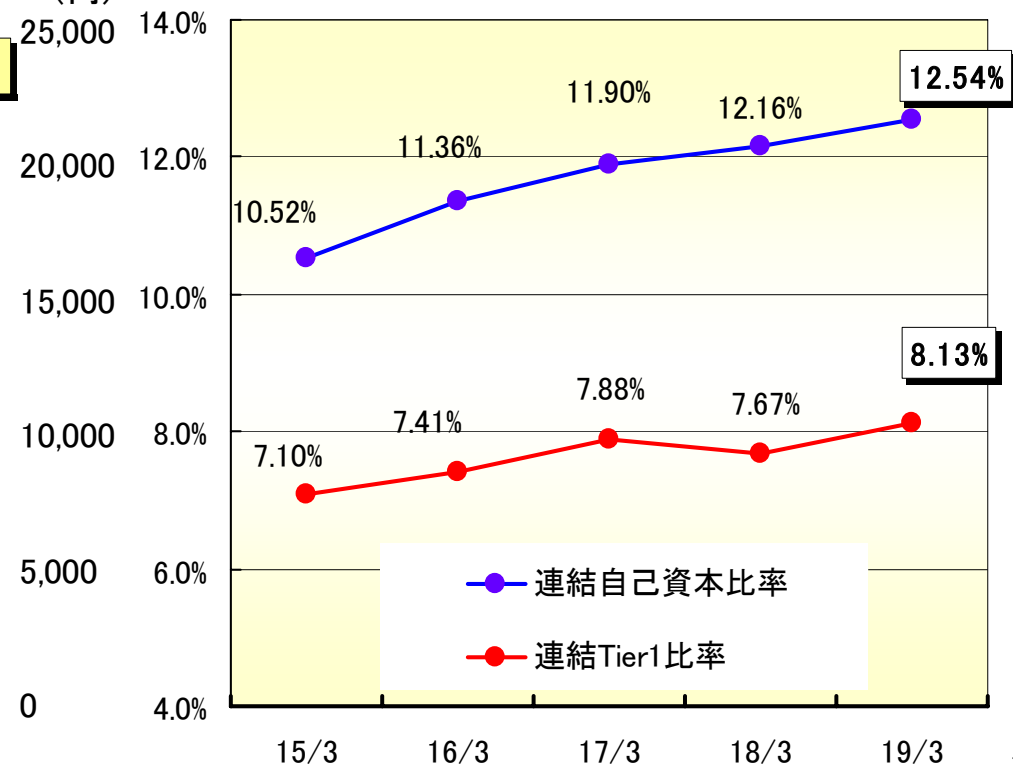
評価益
(億円)

<有価証券評価益(単体)の推移>



日経平均
(円)

<連結自己資本比率の推移>



19年度（年間）業績予想

● 19年度の年間配当は8円（前年度比+50銭）と4年連続の増配を予定

○ 19年度（年間）コア業務純益370億円、当期純利益170億円を予想

○ 創業130周年記念配当1円を予定

○ 19年度中間期業績予想

（単位：百万円）

単体	18/9 中間期実績	19/9中間期予想		
			増減	増減率
経常収益	51,018	53,500	+ 2,482	+ 4.9%
経常費用	40,968	41,500	+ 532	+ 1.3%
経常利益	10,049	12,000	+ 1,951	+ 19.4%
税引前中間純利益	10,830	12,000	+ 1,170	+ 10.8%
中間純利益	6,760	7,500	+ 740	+ 10.9%
業務純益	21,347	16,500	△ 4,847	△ 22.7%
コア業務純益	17,543	18,500	+ 957	+ 5.5%

○ 19年度（年間）業績予想

（単位：百万円）

単体	19/3 年間実績	20/3（年間）予想		
			増減	増減率
経常収益	102,521	111,000	+ 8,479	+ 8.3%
経常費用	77,038	83,500	+ 6,462	+ 8.4%
経常利益	25,483	27,500	+ 2,017	+ 7.9%
税引前当期純利益	26,833	28,000	+ 1,167	+ 4.3%
当期純利益	16,533	17,000	+ 467	+ 2.8%
業務純益	40,631	35,000	△ 5,631	△ 13.9%
コア業務純益	36,722	37,000	+ 278	+ 0.8%

連結	18/9 中間期実績	19/9中間期予想		
			増減	増減率
経常収益	58,518	61,000	+ 2,482	+ 4.2%
経常利益	10,909	12,900	+ 1,991	+ 18.3%
中間純利益	6,804	7,500	+ 696	+ 10.2%

連結	19/3 年間実績	20/3（年間）予想		
			増減	増減率
経常収益	117,318	127,000	+ 9,682	+ 8.3%
経常利益	27,344	29,500	+ 2,156	+ 7.9%
当期純利益	16,629	17,100	+ 471	+ 2.8%

○ 19年度1株当たり年間配当予想

	中間期末	期末	年間
19/3実績	4円（注1）	3円50銭	7円50銭
20/3予想	3円50銭	4円50銭（注2）	8円

創業130周年記念配当を予定

（注1）創立65周年記念配当50銭を含む

（注2）創業130周年記念配当1円を含む